感染症情報発生動向調査速報

平成25年第7週　　平成25年2月11日（月）～平成25年2月17日（日）

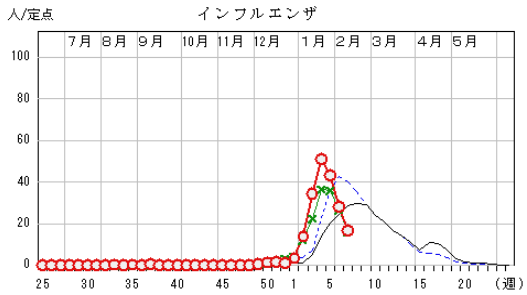
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１） インフルエンザ

第07週の報告数は1166人で、前週より792人少なく、 定点当たりの報告数は16.66であった。

年齢別では、10～14歳（171人）、15～19歳（103人）、30～39歳（98人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、上五島保健所（31.33）、壱岐保健所（24.0）、長崎市保健所（19.35）が多かった。

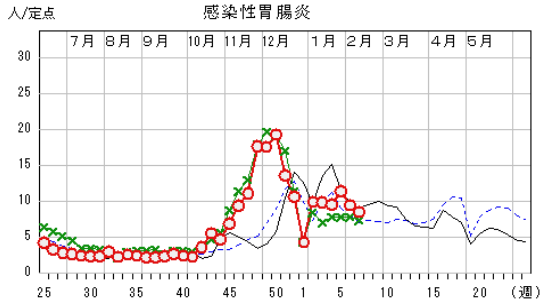


（２） 感染性胃腸炎

第07週の報告数は374人で、前週より43人少なく、 定点当たりの報告数は8.5であった。

年齢別では、10～14歳（57人）、４歳（44人）、１歳（42人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、西彼保健所（12.75）、県北保健所（12.33）、長崎市保健所（10.1）が多かった。

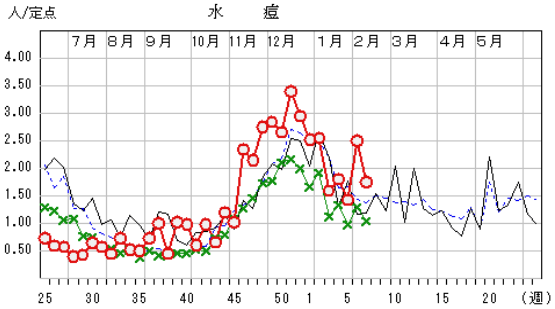


（３） 水痘

第07週の報告数は77人で、前週より33人少なく、 定点当たりの報告数は1.75であった。

年齢別では、２歳（19人）、１歳（17人）、６歳（10人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県北保健所（4.0）、長崎市保健所（2.7）、佐世保市保健所（2.17）が多かった。



当年(長崎県)　前年(長崎県)
当年(全国)　前年(全国)

☆季節情報

【インフルエンザ】

長崎県における第7週の報告数は前週の1958人から792人減少して1166人でした。定点当たりの人数も前週の27.97から16.66に減少し、全国定点当たりの人数（16.31）を若干上回りました。インフルエンザの警報レベル「30」以下になりましたが、終息基準値「10」には達しておらず、依然、警報レベルにあります。

長崎県では1月24日から”インフルエンザ流行警報”が発令されているところです。上五島地区では第6週から患者の急増が認められ、第7週では警報レベルを超える31.33と高値を示しています。それ以外の地区では前週より報告数は減少していますが、県下全域で警報及び注意報レベルにありますのでまだまだ注意が必要です。

今シーズンは、例年通り、正月休み以降本格的な流行が始まり、1月下旬～2月上旬に最初の流行のピークを迎え、患者数は現在下降しています。年齢別にみると、小・中・高世代が全体の1/3を占め、学校等での流行がみられていますので、今後の動向に注視し、感染予防に心掛けましょう。また、県内の医療機関や介護施設などでは面会制限を講じている施設もあるようです。

インフルエンザの予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。今週は気温が低いようです。小さいお子さんや高齢者はもとより、一般の社会人の方や10代～20代の方も体調管理に十分気をつけましょう。また、外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。罹患した際には有効な抗インフルエンザ薬がありますので、体調に異変を感じたら早めに受診しましょう。

【感染性胃腸炎】

第7週の感染性胃腸炎の報告数は374人で、前週より43人減少しています。定点当たりの人数（8.50）は、全国定点当たりの人数（7.29）を上回りました。県下全域から報告があり、西彼地区や県北地区では他の地域に比べ患者報告数が多いようです。例年冬場は報告数が増加傾向にありますので、今後の動向に注視していく必要があります。

例年10月から11月にかけて流行の立ち上がりが見られ、12月中旬頃がピークとなる傾向にあることから、国は昨年の11月13日に、厚生労働省より「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの予防啓発について」の通知を出しました。さらに、本疾患による患者数の全国的な増加が、同時期では過去10年で平成18年に次ぐ高い水準であることから、11月27日に同省から「感染性胃腸炎の流行状況を踏まえたノロウイルスの一層の予防啓発について」の通知が出されています。現在、全国的にも減少傾向にあるようですが、まだまだ十分な注意が必要です。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くは1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

原因微生物のうち、ロタウイルスについては2011年7月にワクチンが製造承認され、2012年7月には国内2製品目が発売されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【水痘】

長崎県における第7週の報告数は、前週より33人減少して77人でした。定点当たりの人数（1.75）は、全国定点当たりの人数（1.04）を上回っています。壱岐および上五島地区を除く地域から報告があり、地域別にみると、県北地区（4.00）で注意報レベル「4」を示しています。

この疾病は、例年、冬場に患者数が増加する傾向にありますので今後の動向に注視していく必要があります。

水痘は水疱瘡（みずぼうそう）とも呼ばれ、原因となる水痘帯状疱疹ウイルスは伝播力が強く、ウイルスを含む飛沫あるいは飛沫核を経気道的に吸入することによる飛沫感染あるいは水泡の内溶液と触れることによる接触感染により感染が成立します。　手洗いの励行、体調管理に心がけ感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザが流行中です！

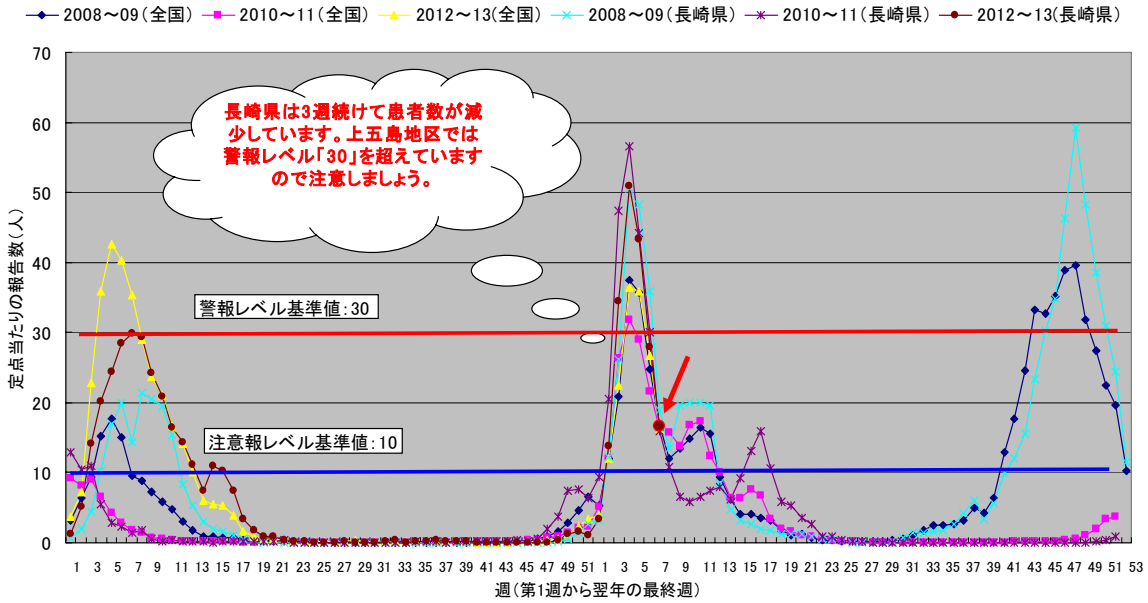
今期、長崎県では24年12月4日にシーズン初の臨時休業措置がとられましたが、今年2月20日までに、休校8件、学年閉鎖74件、学級閉鎖125件が報告されています。

本県の第7週の定点当たりの報告数は前週の27.97から更に報告数は減少し、16.66となっていますが、終息基準値である「10」に達している地域はいまだ無く、依然警報レベルにありますので、今後の動向に注視していく必要があります。

年齢別でみると、10～20歳代が最も多く、次いで30歳代での報告が多くあがっています。

また、2月に当研究センターにインフルエンザと診断され、搬入された患者の検体について検査を実施したところ、1例を除いてすべてA/H3、いわゆるA香港型インフルエンザウイルスの遺伝子が検出されましたが、1例はA/H3とB型の遺伝子が検出され、混合感染していることが明らかになりました。A香港型の流行は下方傾向にあるようですが、2月以降はB型の流行期に入りますので混合感染が認められたことからも気を抜けません。

平成24年4月1日から学校保健法施行規則が一部改正され、「出席停止の指示」について改正前は、「解熱した後二日を経過するまで」でしたが、改正後は「発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日（幼児においては3日）を経過するまで」となっています。インフルエンザに感染し発症した園児や学童、生徒さんには十分な休養をとらせるよう保護者が心がけることにより新たな感染の拡大防止につながります。ワクチン接種による予防はもとより、手洗いの励行、外出先から帰宅した際のうがい、人ごみに入る際はマスクの着用などで、よりいっそうの注意が必要です。積極的な感染防止に努めましょう。



インフルエンザの定点当たりの報告数の推移(2008年～2013年第7週まで)

インフルエンザ・長崎県(2013年第7週)

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
佐世保市	14.09	○	30.18	○	54.09	○	59.18	○	30.73	○	11.18	△
長崎市	19.35	○	30.59	○	47.06	○	55.29	○	37.71	○	14.71	△
壱岐	24.00	○	27.67	○	51.33	○	77.33	○	61.67	○	18.33	△
西彼	12.83	○	20.33	○	38.67	○	49.00	○	30.50	○	11.17	△
県央	17.70	○	29.70	○	40.50	○	46.70	○	27.90	○	17.70	△
県南	11.88	○	28.13	○	50.13	○	62.88	○	64.38	○	21.88	△
県北	16.25	○	37.75	○	49.25	○	51.00	○	30.25	○	14.00	△
五島	11.00	○	19.40	○	29.00	○	37.80	○	17.60	△	6.40	－
上五島	31.33	○	22.67	△	9.00	－	4.67	－	4.33	－	3.67	－
対馬	15.67	△	21.00	△	25.67	△	23.33	△	17.33	△	5.33	－
長崎県	16.66	○	27.97	○	43.33	○	50.91	○	34.50	○	13.74	△

○:警報レベル
△:注意報レベル
ー:警報・注意報なし

警報・注意報レベルの基準値(定点当たり報告数)

警報レベル		注意報レベル
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10

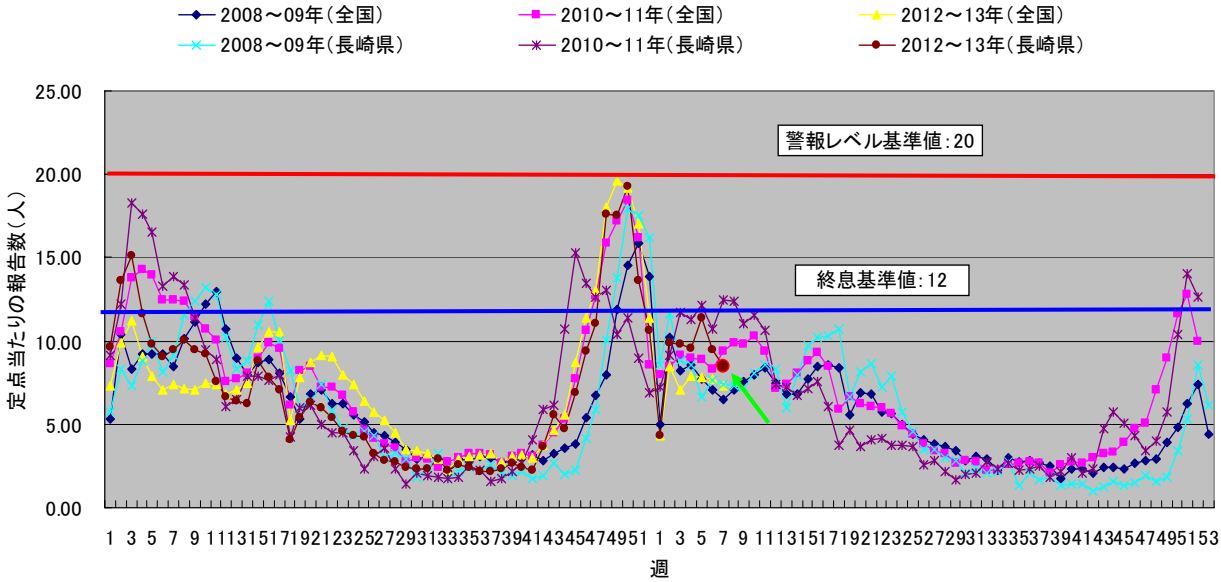
☆トピックス：感染性胃腸炎（ノロウイルス）に気をつけましょう。

昨年から、特にノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行が懸念されており、各地で本ウイルスによる大規模な食中毒や福祉施設等での感染症関連のニュースが取り上げられています。

本県においては現在、ほぼ横ばいに推移しており、前週警報レベル「20」を超えていた上五島地区でも7.50と減少に転じていますが、まだまだ寒く体調を崩しやすい時期でもありますので、引き続き感染防止対策に努めましょう。

2009年の新型インフルエンザ流行の際、手洗いの積極的な励行やマスクの着用等の公衆衛生意識の向上に伴って、感染性胃腸炎の流行も極端に抑制されたことから、手洗いの励行は、簡便かつ有効な手段であると考えられます。

ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。万が一発症した場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。また、症状が治まってからもしばらく便中にウイルス排泄が続きますので、タオルの共用などは避けるようにしましょう。



感染性胃腸炎における2008年から13年第7週までの推移

☆トピックス：昨年に引き続き風しんが増加しています。

昨年から風しんの患者数が他府県で増加しており、長崎県にお住まいの方々にも再三注意喚起してまいりました。

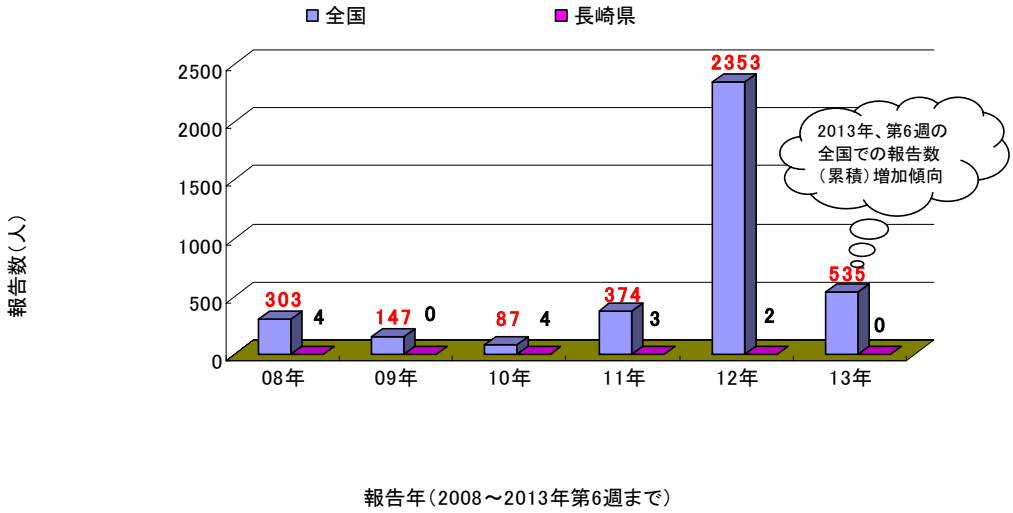
厚生労働省は、今年に入ってからも風しんの患者数が増加し、「先天性風しん症候群」も5例（暫定値）報告されたことから、昨年5月、7月に続き、25年1月にも3度目の注意喚起がおこなわれています。

昨年と同時期の風しんの全国の累積数に比べ、今期は既に535と約20倍の増加が見られますので注意が必要です。

風しんはせきやくしゃみなどから感染し、通常は発疹や発熱が起こりますが軽微な症状で経過し、重篤化することはほとんどありません。しかしながら妊娠初期に感染すると、胎盤を経て胎児にも感染し、先天性の心疾患や難聴、白内障など（先天性風しん症候群：CRS）を引き起こす危険性がある恐ろしい感染症でもあります。

風しんやCRSは予防接種により予防可能ですが、妊婦へのワクチン接種は禁忌であるため、妊婦や妊娠希望者または妊娠する可能性の高い方にうつすことのないよう、パートナーや周囲の人は医師と十分相談の上、抗体検査やワクチンの接種を実施することが重要です。

本県では今年に入ってから報告はありませんが、今後の風しんの動向に注視して十分に注意しましょう。



全国と長崎県の風疹の報告数の推移

◆全数届出の感染症

１類感染症： 報告はありませんでした。
２類感染症： 結核患者、男性（80代・1名）
結核無症状病原体保有者、女性（30代・1名）の報告がありました。
３類感染症： 報告はありませんでした。
４類感染症： 報告はありませんでした。
５類感染症： 全数把握患者の報告はありませんでした。

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別・週別発生状況 （第2～7週、1/7～2/17）

疾患名	定点当たり患者数					
	2週	3週	4週	5週	6週	7週
	1/7～	1/14～	1/21～	1/28～	2/4～	2/11～
インフルエンザ	13.74	34.50	50.91	43.33	27.97	16.66
ＲＳウイルス感染症	0.52	0.52	0.52	0.59	0.41	0.41
咽頭結膜熱	0.25	0.23	0.11	0.43	0.48	0.27
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.34	1.18	1.27	1.07	1.14	0.77
感染性胃腸炎	9.91	9.80	9.55	11.36	9.48	8.50
水痘	2.55	1.59	1.80	1.43	2.50	1.75
手足口病		0.11	0.02	0.02	0.18	0.02
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.05				0.07
突発性発しん	0.48	0.64	0.36	0.30	0.39	0.34
百日咳					0.02	
ヘルパンギーナ	0.14	0.23	0.11	0.14	0.55	0.09
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.50	0.52	0.25	0.41	0.48	0.32
急性出血性結膜炎	0.50	0.63	0.75	1.13	1.00	0.50
流行性角結膜炎	0.25	0.38	0.13	0.38	0.13	0.13
細菌性髄膜炎	0.08					
無菌性髄膜炎		0.08	0.08			
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.25	0.33	0.42	0.17	0.33
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）			0.08			

（2） 疾病別・保健所管内別発生状況 （第7週、2/11～2/17）

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管轄別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	16.66	14.09	19.35	24.00	12.83	17.70	11.88	16.25	11.00	31.33	15.67
ＲＳウイルス感染症	0.41	0.17	0.60		0.25		1.00		1.25		
咽頭結膜熱	0.27	0.50	0.30			0.67	0.20	0.33			
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.77	0.17	1.20			1.67	1.00	0.33	0.75	0.50	0.50
感染性胃腸炎	8.50	7.83	10.10	1.50	12.75	7.83	6.40	12.33	7.75	7.50	5.00
水痘	1.75	2.17	2.70		1.00	0.67	2.00	4.00	1.00		1.50
手足口病	0.02					0.17					
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.07		0.10					0.67			
突発性発しん	0.34	0.17	0.20	0.50	1.00	0.50	0.20	0.67	0.25		
百日咳											
ヘルパンギーナ	0.09		0.10			0.17	0.40				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.32		0.60		0.25	0.50	0.40	0.67			
急性出血性結膜炎	0.50	4.00									
流行性角結膜炎	0.13		0.33								
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.33		0.33	1.00		2.00					
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											